

第12回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

審査総評

建築人賞審査委員長 乾 久美子

1969年 大阪府生まれ
1992年 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996年 イェール大学大学院建築学部修了
1996～2000年 青木淳建築計画事務所勤務
2000年 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001年 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016年 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016年～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授



審査委員長 乾 久美子

去年に引き続き、審査をさせていただき
ました。今年は、現地を拝見する予定で審
査がはじまりましたが、残念ながら、コロ
ナウイルスの感染拡大防止の観点から直前
にキャンセルとなりました。設計者、お施
主様、士会の事務局の方々には現地審査の
日程調整のご面倒だけをおかけする結果に
なりましたが、ご協力いただいたことに感
謝いたします。ありがとうございます。
さて、今年も建築人の紙面から気になる
作品をピックアップし、紙面だけでは読み
取りにくい情報を、追加資料としてA4の
ファイルにまとめて提出いただきました。
一般部門は去年と同様に、実力派の組織設
計・ゼネコン設計部の作品に圧倒的な迫力
がありました。しかし、最終的に建築人賞
として選定させていただいたのは、子供た
ちのための小さな空間でした。
規模もプログラムも違う作品を比較する
のは難しいものです。多様な規模のプロジェ
クトを一堂に並べて比較すると、単純なも
ののほうが好ましく感じ、巨大なプロジェ
クトがむしろ不利になる傾向があるかもし
れません。パッとわかる楽しさがあるから

でしょうか。こうしたものは一種のバイア
スであるとも考えられるので、選定の際に
注意をしたつもりですが、結果として予算
規模が比較的小さいこどもの施設を選定す
ることになりました。子供達のための極小
の空間が単純さがかえって目立ったとい
うこともありすが、子供の空間が根源的な
ものと結びついていると感じられたからで
す。そこに生き生きとした建築のはじまり
のようなものが現れていると思いました。
住宅部門は、穏やかで着実な作品が多い
と感じました。また、地形とともに育まれ
た豊かな住環境に位置する作品や、古墳が
目の前といった作品があり、関西圏らしい
文化の厚みを感じ、興味深く拝見させてい
ただきました。
去年と同様に気になったのは、若い作家
の応募が少ないことです。関西圏は若手の
作家がとて多いエリアだと思えます。若
い作家の作品の面白さは、設計もさること
ながら敷地や設計の与件です。かつての工
業地帯など、これまで建築家の作品がな
かったような文脈の場所に、おもしろい住
宅や作品が出来てきています。そうしたも
の掲載されると、紙面がよりいっそう活
気にあふれ、大阪や関西の意味や可能性を
議論できる場として、生きていくのではな

いかと思います。

また、紙面にプランが掲載されるとより
よいと思っています。子供の頃、実家で定
期購読していた週刊新潮の最後のページに
「マイプライベート」という連載があつて、
毎週それを眺めることを楽しみにしていま
した。B5判の紙面でしたがプランも掲載
されていたのを覚えています。とても小さ
なプランでしたが、建築の形を把握するに
は十分でした。建築士の良心や苦勞、知見
は表層だけではなく、深層に堆積してい
ると思えます。プランは、それを知る重要な
手がかりの一つだと思っていますので、今
後の検討を期待します。



建築人賞記念盾「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作



建築人2019年8月号掲載



設計 / アバクス・アーキテクツ
 施工 / 越智工務店

建築位置 / 大阪府吹田市
 竣工年月 / 2019年3月
 構造設計 / 明興コンサルタンツ
 沼田明樹
 用途 / 幼稚園
 構造・規模 / 混構造 地上2階
 敷地面積 / 6,545.01㎡
 建築面積 / 352.75㎡
 延床面積 / 369.39㎡
 写真 / 眞 / 笹倉洋平

【選評】
 既存園舎の耐震改修と、それに伴う外構の整備が印象的なプロジェクトで、今回、審査させていただいた作品の中で、最も見に行きたいと感じたものでした。道路側の法面が豊かな緑の空間であるにもかかわらず活用されていないことに着目し、子供たちのアシレチックスベースへと転用しています。高低差を利用することで、多様な空間やシーケンスが展開されており、子供たちにとってかけがえのない存在になっているように見えます。ツリーハウスは木の上に限られた面積でしかつくることができませんが、こうした方法であれば、人が使える場所が木々の中におおらかに展開できるかと気付かされました。最近の公園では、遊ぶことだけ、身体を動かすことだけに特化した遊具が目につき、それでいいのかしらと思うことがあります。遊具は、時に居場所として、子供達の空間の経験所豊かに引き延ばすものもあるべきだからです。そうした中で、この遊具は子供たちが最初に出会う「建築」になっていくのではないかと、「建築のよさを感じるといふかけがえのない学び」がここで達成されているのではないかと、そんなことを感じさせる作品でした。



建築人2019年1月号掲載



設計監理 / 大西憲司設計工房
 施工 / アトリエ・エイト

構造監理 / 天野一級建築構造設計事務所
 建築位置 / 兵庫県姫路市
 竣工年月 / 2018年11月
 用途 / 専用住宅
 構造・規模 / 木造(在来工法)
 地上2階
 敷地面積 / 175.77㎡
 建築面積 / 85.17㎡
 延床面積 / 127.49㎡
 写真 / 眞 / 福澤昭嘉

【選評】
 町家のタイポロジーを継承することで、細長い敷地が生き生きとした物語とともに使い切られているように感じました。客間の独立性、中庭、外のような通り土間、メインスペース、奥庭に接続する風呂というように、特徴のある空間がリズムカルに展開しているように思います。また、多様な素材を使いながら、和風の落ち着いたある雰囲気を得ているように感じられました。中でもメインのダイニングの上空にある、宙に浮いた書斎が非常に楽しそうです。現代の住宅で難しい問題のひとつは駐車場だと思いますが、町家の形式性の中に、駐車場を盛り込むことはできたのかもしれないと、それだけが唯一、気になる点でした。

建築人賞奨励賞 兵庫県林業会館



【選評】近年の、木材による高層化の試みには目覚ましいものがあります。本プロジェクトはその一つであり、特にCLTを利用するという点でも目を引きました。木造高層化の大きなハードルである耐火に対する要求に対して、水平力のみを負担させることで被覆の要件をはずすという解決法で応えています。適材適所、無理をしない木質化の一例として、普及する可能性を感じました。特にCLTという、どちらかというとも高強度ではない材の利用としても、合理性を感じます。また単に材を利用したというだけでなく、仕上げに利用される繊細な木の質感ではなく、どちらかというトラフな感じがする木の表情が、オフィスビルのインテリアとしてででくることにも新鮮さを感じました。

設計／竹中工務店
 施工／竹中工務店・大和ハウス工業 JV
 建築位置／兵庫県神戸市
 竣工年月／2019年1月
 用途／事務所
 構造・規模／CLT+S造・RC造 5階
 敷地面積／355.24㎡
 建築面積／310.49㎡
 延床面積／1,567.10㎡
 写真／母倉知樹

建築人賞奨励賞 四畳半キューブの家



【選評】キッチンや風呂、ダイニングなどの機能を、一律的に四畳半のキューブとする提案です。家の機能性を十分に担保しながらも、慣習的な家の構成を解体しながら、箱と路地があつまりへと更新しようとしており、意欲的な作品だと思いました。こうして家らしさが更新されたあとにでてくる、新しい家の姿とはどういう使用れ方と共有するのか、もうすこしすみこなされた状態をみてみたいと思われました。図面にあるように、「広場」は広場として使われるのか？、誰によって？など、お施主様の動きとセットで、今後の成長に期待がもてる住宅だと思いました。

設計／HAMADA DESIGN
 施工／ジェイプランニング
 建築位置／大阪府寝屋川市
 竣工年月／2018年6月
 用途／専用住宅
 構造・規模／RC造+鉄骨造+木造 2階建
 敷地面積／211.24㎡
 建築面積／104.76㎡
 延床面積／89.43㎡
 写真／笹倉洋平

建築人賞佳作 大谷さやまこども園



【選評】既存地形をいかした豊かな園庭や外部空間に特に魅力を感じた作品です。空間として、子供達の遊びを誘発させるだけでなく、外廊下や靴脱ぎ場などの外部スペースとして、こどもの施設に求められる機能がゆつたりとしたスペースとともに用意されており、基本がしっかりおさえられた設計であると感じます。また、保育室は、両側のガラスや高い天井により透明感にあふれており、中の活動が外へと穏やかに伝わる建築になっているように思いました。

設計／竹中工務店
 施工／竹中工務店
 建築位置／大阪府大阪狭山市
 竣工年月／2019年3月
 用途／認定こども園
 構造・規模／S造 2階
 敷地面積／4,111.99㎡
 建築面積／1,348.28㎡
 延床面積／1,981.22㎡
 写真／古川泰造

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇二〇年四月には第六七〇号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は公平性を重視するため、主に関西以外を拠点として活躍する建築関係者、学識経験者をお願いしています。第一回からは横浜国立大学大学院教授の乾久美子氏を審査委員長としてお迎えしました。

今回の審査は二〇一九年に掲載された作品三二点が対象となりました。一次審査は誌面より一般・住宅部門を合わせて計五作品を選出、その後、設計者から追加で提出された詳細資料をもとに二次審査を行い、最終的に建築人賞二点、奨励賞二点、佳作一点が選出されました。

入選作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。また今後より多くの方に参加頂き、建築人賞が大阪から魅力ある建築情報を発信する動機として成長発展していくよう祈念しています。

建築情報部門長 飯田英二

実施要項及び経過

●対象作品

会報誌建築人二〇一九年一月号～二〇一九年二月号「GALLERY」掲載作品三二点

●審査

第一次審査（三二点から五点選出）
第二次審査（五点選出）

●表彰式

中止

（新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発せられたため行わない。）

●入賞作品

建築人賞

ふじしろ幼稚園 二〇一九年 八月号掲載
農人町の町家 二〇一九年 一月号掲載

建築人賞奨励賞

兵庫県林業会館 二〇一九年 四月号掲載
四畳半キューブの家 二〇一九年 一月号掲載

建築人賞佳作

大谷さやまこども園 二〇一九年 一〇月号掲載

建築人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、

建築主・施工者に賞状を贈呈

建築人賞奨励賞 建築主・設計者に賞状を贈呈

建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を贈呈